

新宮山彦ぐるーぶ第1965回

行仙宿巡回(雨水槽の貯留・薪作り作業など)と

笠捨山・捲き道(旧通信道)の点検巡視

◇実施日2018年03月04日(日) 曇り一時小雨後晴

◇参加者：青木宏充(前泊)。豊嶋 寛、川島 功、沖崎吉信、

生熊敏男・千満子、児嶋道夫、畑林清子、湯川一郎、

上村洋司・和美、山川治雄、竹中卓治、乾 克己、

梶野照雄。

15名。

爆弾低気圧(2/28)通過時に春一番が吹くと共に気温が高くなり、今日は張り出し高気圧の後ろ側になり、天候が下降気味であるが降水確率は低いとの事である。しかし、朝から薄暗い曇天が心配になる。

浦向三叉路で沖崎車(生熊夫妻・畑林同乗)、湯川車(豊嶋・児嶋・川島)、上村車(山川)、梶野車、竹中車が8時半に合流。

国道425号線の約5km先地点(距離標334番)で落石工事対策の為、土・日・祭日を除く平日は、通行時間制限が4月20日迄実施するお知らせ看板がある。

森林組合倉庫前で竹中車を停め梶野車に同乗。登山口に到着すると、青木車、乾車が既に駐車。青木さんは前泊したようだ。乾車のフロントガラス面に8時20分に行仙宿に登るメモが在る。梶野・沖崎さんからの薪等の荷をモノレールに積載する。

雪解け水と雨後が重なって、登山口の水場は、豊富に流れていたが、水場前に大きな落石が落下していた。多少支障があり落石を谷に落とすと、谷に落ち際に石が飛び交い、谷前の路傍に駐車している車に当たる可能性があり、路側に駐車していない時に取除くことにした。

モノレール終点にて背負子等で貰った薪を各自担ぎ上げた。



浦向三叉路で合流



モノレールに荷積載



水場前の落石

午前10時過ぎに行仙宿到着。荷物を降ろして、しばらく休んでいると、ポツリと小雨が振り出す。どうするか思案していると、前泊の青木さんが、笠捨山山頂直

下迄点検巡視に行つて戻つて来られた。この間に倒木を1本処理したが、山頂迄倒木がないかもしれないとの報告がある。

笠捨山登頂希望者は、5名「豊嶋・児嶋・竹中・上村洋・生熊千」あり弁当を持参し、帰路は出来れば捲き道経由での点検巡視をお願いする。小屋に居残り小屋内・倉庫内整理、小屋周辺の清掃等の作業をする班(沖崎・生熊敏・青木)以外の7名(川島・乾・山川・湯川・畑林、上村和・梶野)は、笠捨山捲き道点検巡視班で弁当を持たず小屋に戻つてから昼食にする事にした。

笠捨山撤き道(旧通信道)点検巡視班

捲き道班は総勢7名だ。前回、山川さんの偵察では、分岐から見える地点の捲き道に、倒木が在ったとの事からチェーンソーを1台持つて、10時15分に笠捨山捲き道に向かった。

2月には一面真っ白の雪化粧だったが、雪は全く残つておらず、気温も15℃を越えて、暖かいというより暑いくらいだ。

分岐を過ぎて程なく杉倒木が処理されていた。鉄塔巡視路保守

班の人かもしれない。



行仙宿到着



栈木横の穴を塞ぐ

23番鉄塔への分岐尾根を過ぎ、枯れ支谷を渡る地点で、谷側の栈木横に土が落ちてしまいい塞ぐことができない。岩で塞ごうとしたが下に落ちてしまい塞ぐことができない。直径5cmほどの枝を集めて栈木の横に並べて何とか穴を塞いだ。

前方からチェーンソーのエンジン音が聞こえてきた。先行した川島、山川さんが倒木切除しているようなので、急いで先へ向かう。

2分ほどで追いつくと、斜面上方から15mの杉の木が倒れて捲き道を塞いでいる。この倒木に倒されたと思われる直径15cmの腐雑木も下敷きになっていた。杉の倒木はかなり長かったので、4か所で切断して谷側に排除した。チェーンソーの歯が挟まるというアクシデントもあったが、人数だったので事なきを得た。



根元径約40cm・長さ15mの杉倒木の切除処理

24番鉄塔を過ぎたベンチで休憩、この頃から天候が良くなり青空が広がってくる。午前11時半に引き返すことにして先へ進む。少し歩くと栈木横の穴を発見、30cm近くあり岩では埋められないので、直径10cmほどの木を切つて渡すことにした。山川さんが切り倒して下さったが、木が倒れたと同時に、上から小石が落ちてきて頭部を直撃、木に巻き付いていたツルの先が、上の小石をひっかけたようだった。小石が小さかったこと、帽子を被っていたことが幸いして、少し内出血した程度の打撲で済んだが、今後、上方からの落下物が考えられる作業では、ヘルメットの着用を義務付ける必要があるようだ。

11時35分に穴塞ぎ作業を終了して行仙宿小屋に引き返す。葛川辻の奥駆道迄残り約30%が未点検となった。

昨春、撤き道の栈木を支える浮いた木杭やくい丸を大ハンマーで打ち固めた作業の効果が有り、薪道の崩れた箇所は少なかった。12時10分に行仙小屋に戻ると、上村洋さんが笠捨山直下斜面下から昼食に戻られていた。又、小屋居残り班は作業をされておられ、作業を中断して全員で昼食を摂った。



栈木横の穴を塞ぐ（2か所目）



撒き道点検巡視班

昼食後の13時頃より、周辺より集積された雑木をチェーンソーで切除し、薪作りと薪小屋への運搬作業を手分けして行う。



薪作り作業



オオヤマレンゲと荘川桜(下)の獣除け金網補修



手の空いた方は、ケヤキ、オオヤマレンゲ、荘川桜の獣除け金網の補修を行い、略終了した頃に笠捨山登頂班が戻りコーヒータムとなり、15時過ぎに全員下山する。

行動タイム

8:30 浦向三叉路8:35→8:55 登山口9:10→10:05 行仙宿10:15→引き返し地点11:35→12:10 行仙宿(昼食)13:00→薪作り・植栽木の獣除け金網補修作業等14:30→行仙宿15:00→15:30 登山口15:45(解散)
(記：梶野)

笠捨山点検巡視班

笠捨山山頂付近には、雲がかかり、時折ポツポツと小雨が降る天候の中を出発したが、次第に雲が薄れ晴れて暖かくなる。

11時頃に倒木が4本あり、手鋸で処理する。この間に「行仙宿迄30分」の標識1枚を設置。11時15分倒木1本切除。

11時30分、風を避けられる所で全員昼食。上村洋さんは、弁当は奥さんが持っている事から行仙宿へ引き返すとの事、この間登山道傍の歩きづらい木々は、剪定鋏で刈って下さった。

昼食後(12時)、笠捨山直下の急斜面の判りづらい尾根への上り道には、豊嶋さんと目印の桃テープを多数取付け、奥駆道が辿り易くなったと思う。又、違った踏み跡道への赤テープを3箇所取外した。尚、この斜面の所々に残雪が残っていた。

茶臼山方面へは、通行止のトラロープも設置。12時50分、笠捨山山頂に到着し、約10分休憩。

捲き道(旧通信道)経由を言われていたが、出発時の天候から捲き道班は、昼食は行仙宿と聞いていたので、廻れば時間がかかり待たせる事になると思われる、登路を引き返す事にする。

下山時は、昨年の大阪の行方不明者が滑落しそうな地点を、搜索時より木々が落葉して見通しが効き、全員で上から覗き探索しながら休憩なしで、14時30分に行仙宿小屋に着く。

本日は、標識3枚取付け、倒木は4カ所6本切除した。



笠捨山点検巡視班戻る

行動タイム

行仙宿10:15→11:00倒木→11:30昼食12:00→12:50笠捨山13:00
→14:30行仙宿。



登山口に下山



本日の作業参加者(登山口下山後)

(記：兎嶋。写真：川島)